

株主通信

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌
2012年 冬号

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素のご支援、ご愛顧に厚く御礼申し上げます。

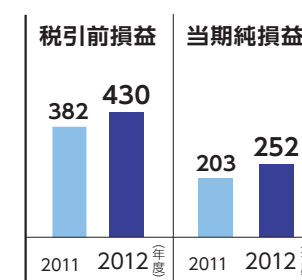
2012年度第2四半期累計期間(4-9月)においては、国内外における火力・水力発電システム、海外の原子力が引き続き好調、昇降機、医用システムも海外で伸長したほか、ランディス・ギア社買収効果もあり、社会インフラ部門が大幅に増収を達成しました。一方、市場環境の悪化や円高の継続などによりデジタルプロダクツ部門などが減収、また、液晶事業を株式会社ジャパン・ディスプレイに譲渡した影響もありました。この結果、売上高は、2兆6,859億円(前年

同期比2,266億円減)となりました。

営業損益は、社会インフラ部門が大幅な増益でしたが、全体としては690億円(前年同期比100億円減)となりました。

部門別に見ますと、社会インフラ部門がエネルギー関連、系統・変電、太陽光発電、医用システムなどの増益により、第2四半期累計期間における過去最高益497億円を達成しました。デジタルプロダクツ部門はパソコンが一定の利益水準を確保しましたが、液晶テレビが国内需要減の影響を受けたことにより、-36億円でした。電子デバイス部門は、276億円でした。ストレージ(記憶装置)の増収やシステムLSIの事業構造改革効果があつたものの、NAND型フラッシュメモリの売価が前年同期比で下落した影響を受けました。なお、NAND型フラッシュメモリは、生産調整や微細化の推進により前四半期比では大幅な増益を実現しています。家庭電器

第2四半期累計期間 連結決算概況(単位:億円)



※本株主通信では、「継続事業税引前損益」を「税引前損益」として表示しています。
※米国会計基準により「当社株主に帰属する四半期純損益」を当期純損益として表示しています。

剰余金の配当 (1株当たり)

中間(2012年9月末) **4円**
2012年12月3日 支払開始
期末(2013年3月末) **未定**

部門は、21億円でした。

税引前損益は430億円(前年同期比48億円増)、当期純損益は252億円(前年同期比約49億円増)と、いずれも増益となりました。

剰余金の配当(中間)につきましては、1株当たり4円といたしました。期末については、業績動向などを踏まえて決定してまいります。



代表執行役社長
佐々木 則夫

▶▶ 次のページに続く

▶▶ 前のページから続く

今般、2012年度通期の業績計画につき以下のとおり見直しました。

売上高	61,000億円
営業損益	2,600億円
税引前損益	1,900億円
当期純損益	1,100億円

これは、社会インフラ部門が、売上高、営業損益ともに期初計画値(2012年5月8日発表)を上回る高い利益水準を確保する見込みであることや、他部門での下期の業績動向を勘案したものです。売上高は前期実績とほぼ同額ですが、損益は、営業損益が573億円増、税引前損益が444億円増、当期純損益が399億円増と、いずれも前期を上回る計画です。

引き続き全社一丸となって業績計画の達成をめざしてまいりますので、株主のみなさまには変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2012年12月

代表執行役社長

佐々木 則夫

2012年度第2四半期累計期間の連結決算概要

2012年度第2四半期累計期間の連結決算の詳細は、東芝ホームページの投資家情報 ▶ IRイベント ▶ 決算説明会でご覧いただけます(説明会動画も視聴できます)。

2012年度第2四半期 累計期間連結業績(単位:億円)

	2011年度	2012年度
売上高	29,125	26,859
営業損益	790	690
税引前損益	382	430
当期純損益	203	252
為替換算レート(円/ドル)	80	80
(実績)(円/ユーロ)	116	101

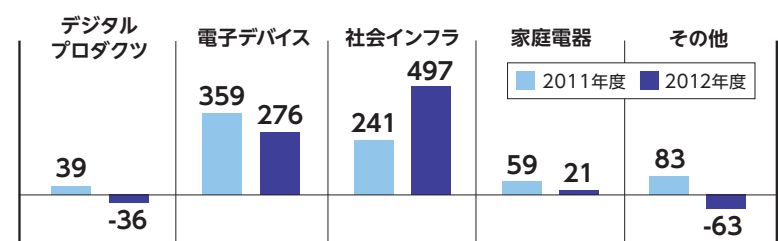
決算
Q&A

財務状況は
どうでしょうか。

A 第2四半期累計期間のフリー・キャッシュ・フローは、マイナス1,698億円でしたが、前年同期比では483億円改善しました。当社は、社会インフラ部門を中心に売上・損益が下期に集中する傾向がありますので、下期での増収増益によるキャッシュ・フロー改善が寄与していくことを見込み、2012年度のフリー・キャッシュ・フローはプラス1,100億円を見込んでおります。この結果、本年度通期の有利子負債・株主資本比率(D/Eレシオ)は、2012年3月末の143%を下回り124%程度まで改善させていく計画です。

部門別営業損益

(単位:億円)



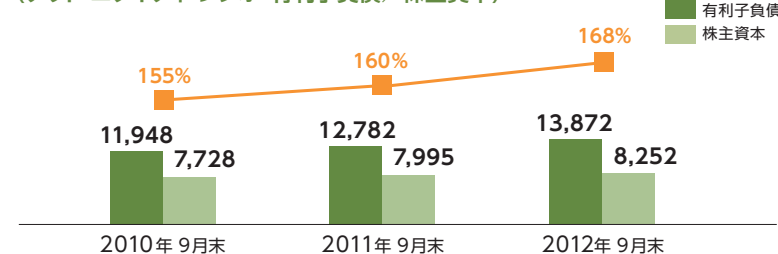
- デジタルプロダクツ** ■ 国内における液晶テレビのさらなる需要減の影響などにより、部門全体で減益
- 電子デバイス** ■ ストレージの増収とシステムLSIの事業構造改革効果があるものの、メモリの売価が、前年同期比で下がり、部門全体で減益
■ 第2四半期のメモリは、生産調整の効果および微細化の推進などにより、前四半期比で増益
- 社会インフラ** ■ 火力・水力発電システム、海外の原子力が好調で、系統・変電、昇降機、医用システムなども増収増益となり、過去最高益を達成
- 家庭電器** ■ 業務用空調、LED照明などが増益となったものの、白物家電が減益で部門全体で減益

部門別営業損益の「その他」には、主な事業として物流サービスなどがあります。また、部門間消去は2011年度9億円、2012年度5億円です。

D/Eレシオ

(単位:億円)

(デット・エクイティ・レシオ:有利子負債/株主資本)



2012年9月末のD/Eレシオは、IBM社 リテール・ストア・ソリューション(RSS)事業買収の戦略的投資による増加および会社分割後の東芝ファイナンス(株)を連結子会社したことによる増加を含みます。これらを除けば、前年同期とほぼ同水準でした。

トピックス

2012年度部門別連結業績計画 (単位:億円)

部 門		2011年度 実績	2012年度 今回見通し
売上高	デジタルプロダクツ	16,640	15,400
	電子デバイス	14,369	13,200
	社会インフラ	24,128	27,100
	家庭電器	5,768	6,500
	その他	5,063	3,300
	消去	-4,965	-4,500
	連結計	61,003	61,000
営業損益	デジタルプロダクツ	-282	50
	電子デバイス	754	800
	社会インフラ	1,302	1,800
	家庭電器	57	100
	その他	177	-100
	消去	19	-50
	連結計	2,027	2,600

※2011年7月に買収したランディス・ギア社に関する取得金額の資産および負債への配分完了に伴い、2011年度の数値を一部遡及修正しています。

クラウドサービス*を活用する デジタルハイビジョン液晶テレビ

「レグザ(REGZA)」の新商品として、「Z7シリーズ」を10月下旬から順次発売しています。当社が新たに開始するレグザクラウドサービス「TimeOn(タイムオン)」を活用し、録画番組から関心のある場面を視聴できるサービスに対応したほか、録画の中からユーザーの好みに合う番組を薦める「ざんまいプレイ」機能などを搭載しました。画質は、超解像技術により緻密で色彩豊かな映像を再現しています。

* インターネット経由で提供されるサービス



Z7シリーズでクラウド対応を拡充

3つの使い方を1台で実現した 新型Ultrabook™(ウルトラブック)

液晶をキーボード上にスライドさせる当社独自の「スライド&チルト機構」により、タッチ操作に適したタブレットスタイル、液晶を水平に開くことで、対面の相手と情報共有できるフラットスタイル、キーボードやタッチパッドで操作できるノートPCスタイルの3つのスタイルを実現したUltrabook™(ウルトラブック)「dynabook R822」を発売しました。



dynabook R822

NAND型フラッシュメモリとの相乗効果で成長するストレージ(記憶装置)

エンタープライズ(企業)向けSSD(ソリッドステートドライブ)

当社として初めてエンタープライズマルチレベルセル(eMLC)*1のNAND型フラッシュメモリを採用した2.5型エンタープライズ向けSSDを製品化し、10月から順次サンプル出荷を開始しています。最大1.6テラバイト*2の記憶容量は業界最大クラス*3となるほか、新規開発のコントローラの搭載などにより、当社従来製品比で約1.8倍の連続読み出し速度を達成しました。高性能サーバーや階層化された高性能ストレージシステムに適用することで、さらなる性能改善が可能になります。

*1 eMLC:多値化技術を使って記憶容量を増大させた、信頼性の高い企業向け製品
*2 1テラバイトは1,000,000,000,000バイト
*3 2012年8月21日現在、東芝調べ

業界最大クラスの
1.6TBを実現した
エンタープライズ向け
2.5型SSD



ハイブリッドドライブ

NAND型フラッシュメモリを2.5型HDDに搭載し、高速で書き込みや読み出しなどができる、ハイブリッドドライブを製品化し、9月からサンプル出荷を開始しました。書き込みや読み出しなどの性能を従来の当社製HDDに比べ約3倍高速化しており、PCなどに適用した場合、例えばアプリケーション起動時間では40%程度短縮することが可能です。



イメージ

投資家情報サイトのリニューアル(改訂)について

デザイン、構成、操作性の点で全面的な改訂を行い、情報の充実と使い易さの向上を図りました。スマートフォン用のトップページもご用意しました。決算説明会の動画配信もスマートフォンからご覧いただけます。SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)のシェアボタンも一部ページに設置しました。当サイトの一層のご活用をお願いいたします。



トピックス

世界最高効率*1のコンバインドサイクル発電システムを受注

当社は、中部電力株式会社西名古屋火力発電所向けコンバインドサイクル発電システム*2を受注しました。このシステムは、米国GE社が開発した新型ガスタービン「7F」と当社製最新鋭蒸気タービン・発電機を用いてプラント熱効率で世界最高効率の62%（低位発熱量ベース）を実現しました。今後も効率、信頼性の高いコンバインドサイクル発電システム事業をグローバルに展開して火力発電システムの事業拡大を図ります。

*1 2012年9月現在、東芝調べ。

*2 ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた高効率の火力発電システム。
ガスタービンの排出ガスで蒸気を発生させて蒸気タービンによる発電も行うため、従来型と比べてエネルギー効率に優れ、CO2排出量も少ない。

仏国アルストムグリッド社とスマートグリッド事業で提携

当社は、スマートグリッド分野における事業領域拡大のため、本年9月にアルストムグリッド社と協力関係を構築する覚書を締結しました。今後は、電力システムだけでなく、スマートメーターや蓄電池など、配電領域にも注力する当社と、送電領域などでグローバルに事業展開し、電力供給を監視・制御するシステムに強みを持つアルストムグリッド社と各々の強みを補完し合い、地域エネルギーマネジメントの実現をめざします。

クウェート水電力庁からの変電機器・据付工事を受注

当社は、クウェート国アズールノース変電所向け変電機器および据付工事一式を受注しました。2013年6月から順次納入する計画です。受注した機器のうち、40万ボルトガス絶縁開閉装置（GIS）は、同クラスでは最大遮断電流の機能を有しています。当社機器の高い性能・信頼性に加え、中東地域での納入実績が評価され今回の受注を獲得しました。

米国ニューメキシコ州ロスアラモス郡のスマートグリッド実証サイトが始動

当社が委託先リーダーを務めている実証サイトが完成、本年9月から本格的な実証運転に入りました。本プロジェクトは、NEDO*1が同州政府などと共同で取り組んでいる日米スマートグリッド実証プロジェクトのひとつです。天候により電力出力が変動する太陽光発電を配電線に連系し、大型蓄電池制御とデマンドレスポンス*2を用いて電気の流れを制御し品質を確保するシステムを構築する、最先端のスマートグリッド実証です。

*1 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
*2 需要家による電力消費の調整

スマートグリッド実証プロジェクトの運転開始式



中尊寺へLED照明設備と太陽光発電システムを寄贈

当社グループは、東日本大震災からの復興支援活動の一環として、岩手県への観光集客力の拡大に貢献するため、世界文化遺産に登録されている岩手県平泉の中心的構成資産である中尊寺に、LED照明設備と太陽光発電システムを寄贈しました。中尊寺金色堂においてLED照明を導入するのは、今回が初めてとなります。また、自然と共生する平泉の理念に賛同し、自然エネルギーを活用する5キロワット規模の太陽光発電システムを寄贈し、LED照明の改修に合わせて発電が開始されました。



LED照明に一新した中尊寺金色堂

福島県飯舘村での復興事業に協力する協定書を締結

当社は、復旧・復興および地域活性化を推進する「新までいな村（仮称）構想推進準備委員会」に協力する協定書を締結しました。再生可能エネルギーの活用、復興住宅、記録と伝承・情報発信などの各分野ごとに当社の技術力を活かして「新までいな村（仮称）構想：スマートビレッジ」の実現をめざし協力していきます。また、同様に協定を締結している南相馬市ともメガソーラー発電やスマートコミュニティの事業化に向けて協議を進めています。

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報室あてにお送りください。

投資家情報サイト <http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

株式会社 **東芝** 〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL (03)3457-4511 (代表)

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おください。



本誌は、環境対応型インキである「植物油インキ」を使用しております。



株式事務についてのご案内

株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502